

中津川市総合計画審議会
第2回防災・環境部会要旨

平成25年9月13日（金）
午前10時00分 開 会

部会長あいさつ

（丸山充信部会長） 第2回の防災・環境部会です。年内にはほとんど仕上げないと間に合わない
ので、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

1. 市民アンケートの中間集計の報告

（丸山充信部会長） 事務局からアンケートの報告をお願いします。

～事務局 報告書説明～

（丸山充信部会長） 速報値とのが、改めて出てくるのか。

（木村企画財務課長） 17日の週の早い日にちで郵送します。

（丸山充信部会長） 防災・環境部会の関係では、57ページの満足度スコアの4位に上下水道
の整備、6位に救急、9位に自然環境、10位にごみ処理で非常に満足度が高い。ただし、アンケートの年齢層にもよる。

避難施設の現状、自然エネルギーの活用、有害鳥獣対策の取り組み、これらが満足していない。

もう一つは66ページの全体の必要性スコアで、満足度スコアの38位の避難施設の現状と充実に対して、必要性のスコアが非常に高いので、この辺りは少し考えなければいけない。

地域コミュニティ活動は必要性が低くて、満足度もあまり高くないので、この辺をどう捌いていくのかと思っております。

78ページの市民ニーズの順位表では、避難施設の現状が6位、自然エネルギーが8位、有害鳥獣対策が11位、交通安全・防犯は22位になる。これはまあまあ現状でしっかりやっているのかなと思う。

（栗谷本副部会長） 回収率が非常に低い。これがこれから中津川をどうしていくかという中で、この方法で本当にいいのかどうか。市民のニーズを探る面での回収率をもっと高めないと、本来の中津川のあるべき姿が反映されないという危機感を非常に感じる。2,500通出して800通ちょっとの回収だと、正当な値なのか疑問を感じる。

（波多野委員） 結果報告は1回やるだけか。

（丸山充信部会長） 来週、もう少しまとまったものが送られてくる。

（大西委員） おそらく数値は変わらないから、これで考えてもいいと思う。

（丸山充信部会長） 回収率は、3割を超えていればいいのか、5割なければいけないのかよくわからないが。

（波多野委員） 回収率は、このぐらいではないか。

(栗谷本副部会長) 回答しなかった人が、どうでもいいという気持ちなのか、全然関心がないのかその辺りはよくわからない。

(波多野委員) 一見良い方法だと思うが、他にも至るところが絡んでくるから、これだけでは決して市民のニーズが現われているとは思えない。

(丸山充信部会長) 4 ページでは、年代はともかくとして、中津地区 35.7%、神坂 1%、山口 2%、川上 1%、阿木 2.7%、これはどこへ送ったのか

(大西委員) 住所は無作為に抽出したか。

(木村企画財務課長) 住所と年代はある程度地区のバランスを取っています。

(大西委員) 誰にというのはどうか。

(木村企画財務課長) 誰にいうのはわからないです。

(大西委員) 人口や年齢は地域的に発送数を決めたが、人に対しては無作為に抽出なので誰に送ったのかはわからない。それで、送ったものが回収されていないということだが、回収に行くという制度でもいい。

全体の問題なので、会長や副会長の責任で考えないといけないが、送った先の住所はわかっているか。

(木村企画財務課長) 無作為なので住所は記録していません。

(大西委員) 改めて回収することはできないか。

(木村企画財務課長) できないです。

(大西委員) そうすると、現在あるものでどう考えるかということになる。

このアンケートを市民の意思の総量として考えることは許されないと思う。基本的に大きな資料としてアンケートとインタビューがある。インタビューも一つ必要。それから現構想の平成 24 年度末の中間評価会。これが 3 つの大きな資料だと思う。

回答者の半数が老人で、男女別でみると 40 代ぐらいまでは女性のほうが多い。そして、10 ページの「暮らしやすさ」で、68%が「イエス」と答えている。70 歳以上の人が全部「はい」だとすると、残りの 30%がこの 7 割の人を養っているから暮らしやすいという話になる。従って、この問題にどう対応するかだが、アメリカ流でいうと共和党で考えるか、民主党で考えるかになる。お金を払って支えているサイドで考えるか、社会の安全を享受しているサイドで考えるかということで、60 歳、70 歳以上の人が「イエス」と言っているで、このサイドで考えると、残りの人が働いているものを享受するということになる。どの人たちの意見を重点的に聞くのか、どこかでポジションを決めないといけない。

中津川の社会や経済を労働で支えている人のサイドで考えるか、その労働の成果を分配してもらっている人のサイドで考えるか。これはいろんな場合に仕分けながら考えていく必要がある。

例えば、税金を払っている 30 代、40 代、50 代の 3 つの世代でこの図面を全部もう一度書き直してみたらどうなるかとか。そういういくつかのデータの組み直しで、栗谷本副部会長がいう意見を全部反映しているかというところに、

迫っていける。

(栗谷本副部会長) 怖いと思うのは、時間をかけて作ったことが、2年、3年、5年先に「ちょっとおかしい」と受け入れられなくなる可能性があるということ。中間的にまた修正できるかもしれないが、今のように変動が激しい時に、これをすべての基本として考えるのは少し無理がある。

(大西委員) このデータをいろんな形で処理して、それを判断材料にすることだと思う。

(丸山充信部会長) 今度の総合計画は12年間で、3年ごとに見直しをするのか。

(木村企画財務課長) 基本はそのままずっといきます。

(大西委員) 諮問があつて答申をするが、3年ごとに見直すとか、3年ごとに我々が何か発言するとかいうことは一切入っていない。

(丸山充信部会長) 他の都市の総合計画を見ていると総花的なことが書かれているが、事細かくそこまで書いていなかった。

(大西委員) 例えば防災とか環境とか、この部会はお金を使うほうでお金を生み出す部会ではない。

通常はトレードオフというが、縦に防災、下に横のお金の線があったとして、防災の主張が強くなっていくと、防災関係のお金が出ていく。そうすると横の線のお金が下がってくる。

だからこの関係がトレードオフであれば常にこういう関係にあるので、防災とか文化の主張を大きくするとお金がかかる。だからお金のほうを上げるように協力することはできないかという考え方があつて、考え方としてはこの2つだと思う。お金を中心に考えると共和党的な話になるし、防災を中心に考えると民主党的な話になる。それをミックスして社会民主党的だと少し斜めに入る。

(丸山充信部会長) これを100%信じるわけにもいかないし、これからのグループインタビュー辺りで問題が出てくるのではないかと思う。ただ中津川リニアのまちづくりビジョンとものすごく重複する。

もう一つは、今アンケートをやったのはいいが、工事が始まって町が様変わりしてくることまで本当に読み切れるかどうかだと思う。

(波多野委員) 100通出して1通しか来ないところを数字に入れられるのか。

(丸山充信部会長) そういう結果が出てきたのでやむを得ない。

(大西委員) これはこれで受け止める必要がある。

(木村企画財務課長) 先ほどの回収率ですが、中津川市全体を100として見たときに、川上の人口が大体1.1パーセントぐらいで、川上は1.1%の回収ができたという意味ですので、川上が1%しか回収できなかったわけではないです。人口の比率に合ったような回収率になっています。

(丸山充信部会長) 地区ごとの何パーセントかはわからなくて、人口の割合でいっているということか。

(木村企画財務課長) はい。

(丸山充信部会長) いずれにしても、来週出していただけるようです。

(木村企画財務課長) 例えば年代別で労働者の年代と高齢者の年代分けての分析作業を業者に

依頼しておきます。

(大西委員) 副部長の方々と一回相談会を持って、その中で組み替えの相談をしてみる。年代を一定の段階で切って図面を全部書き直してみるとか、これをもとにしてもっと具体的な作業をしたほうがいいと思う。

部会が抱えているいくつか課題、テーマがあるので、そしてこのテーマについて全体で見たらこういう要望とか、あるいは方向性が出るということは一回まとめておかないといけない。

(丸山充信部会長) 何歳以上を高齢者とするか。

(波多野委員) 65歳というのが一般的。

(丸山充信部会長) 65歳以上が高齢者だが、線引きは60歳でやるのか。

(大西委員) アンケートが10代、20代、30代という切り方をしている。65歳で働いている人もいるので、もう子育てが終わっている世代と、今子育てで忙しい世代ということで考える。子育てに忙しい世代を社会としてももう少し支えなくてはいけないということで。

2. (将来都市像について)

(丸山充信部会長) 2番目の将来都市像について、各委員の所見表明について、説明をお願いします。

(栗谷本副部会長) 中津川は自然豊かだが、その豊さの数値、データが市に何もない。基準となるものがない。これからリニアが来ても、将来的に残すべき動植物、湿地とかの判断基準がないので、データベースを作る必要がある。

7月に中津川市内の環境団体の連絡協議会を発足させたが、これをもう少し発展させて、いろんな調査等をやってこのデータベースを作る。どこがやっていくかだが、金銭的には県の森林環境税を使う方法を考えている。もう一つはこの中にも関連する大学の先生方もいるので、学校の授業の一環としてもできる。もう一つは、市内で自然環境に関わる次世代の方がなかなかいない。中津川市の遊休施設で拠点になるところがいくつかあるので、そこで自然学校のようなものを育てていく。これも森林環境税のプラットフォーム事業の中に取り込んでいきたい。

もう一つ、将来的に中津川の自然を考えるということを市全域に広げられないかということで、杉の子幼稚園、北野保育園と南さくら幼稚園の3園で木育というモデル事業を展開していて、これも森林環境税を使って提案できないか考えている。

緑を残して小水力発電の水源の保護とか、少し長期的に見ながら保護・保全ができるのではないかと考えている。また、緑が多く残れば温暖化防止にもつながるので、それを計画に盛り込めないかという意見です。

(丸山充信部会長) 9月9日のオリンピック誘致で、安倍総理が日本のエネルギー政策について、原子力の比率は引き下げ、今後3年程度の間、再生可能エネルギーを普及、省エネルギー推進を最大限加速すべきとしたので、防災・環境部会では、

再生可能エネルギーを手掛けていかなければいけないと思う。

もう一方は、安全安心で潤いのある暮らしの環境づくりの防災・交通面の基準を12年で作っていかなければいけないと思う

環境面は再生可能エネルギーや野生動植物のデータベースを作っていくことが必要だと思う。

もう一つ、いろんな面でバリアフリー化が諸外国から遅れているので、バリアフリー化の取り組みも必要。

平成27年から12年間で交通面、交通網、環境面も変わる。変えなければいけないもの、守り続けなければいけないものを慎重に識別して防災・環境部会の将来都市像をまとめたい。

自分の所属団体は中津川体育協会だが、日本の体育は、運動、体育、スポーツの3つに分かれている。中津川体育協会はこの3つに全部絡んでいる。運動は中津川市民の健康推進、体育は学校の体育授業、スポーツは各競技団体の競技力向上。戦後の日本は、運動は厚生労働省、体育は文部科学省、スポーツは総務省の縦割りだったが、今度のオリンピックを契機にして一緒になると思うが、この3つの柱はしっかりやっていかなければいけない。

それから障がい者スポーツに取り組んでいかないと他の地域、諸外国から遅れていく。障がい者が運動できる施設がないので、それをどうするか。

それから2020年に向けての若年層の競技力強化。

将来に向けて実施する課題に根の上高原体育館があるが、市有財産（施設）管理運用マスタープランに載っているなので、ここもしっかり見守っていかなければならない。

リニアのまちづくりビジョンで「身近な公園やスポーツ施設の充実によるスポーツ・レジャーの振興」、「リニアを使った都市部とのスポーツの試合などによる交流の促進」とあるので、都市部とスポーツの試合などもして、子どもたちに体験をさせていくことも必要。

あとは私立幼稚園について、今の地方版の「子ども・子育て会議」があるので、この推移を見ながらやっていかないといけない。幼児教育、幼児保育のあり方は、これから変わっていくので、検討事項として出した。

(波多野委員) 私は文化協会の所属なので、文化協会の将来像を出した。

ハコモノかもしれないが、文化会館や図書館などを市につくってもらえると、私たちは行動がしやすい。そういうものがないと文化の発展はないと思っている。その辺は部会ではなく全体の会の会議が進むにつれて、肉付けしていけるのではないかとと思っている。

(丸山充信部会長) 文化協会として書面に出したほうがいいのではないかな。

(波多野委員) 文化協会としてではなくて、私の個人の意見として出した。

(大西委員) 地域社会が崩れると地域の大学もだめになる。地域社会がきれいに循環すると大学も学生の募集ができて教育ができる。

中津川の高校によその中学校から来る数と、中津川の中学生がよそに出る数で

いくと流出のほうが多い。小学校も中学校も数はあまり動かないが、高校になると出ていく。これが循環してくれないと大学も循環できない。

一番望んでいるのは、中津川が経済的、社会的、文化的に収支のバランスが取れているような、社会、地域になってほしいということで、そうすると大学的にも非常に助かる。

その次に大学としてそういう循環のためにどういうことができるかだが、例えば予算が10億円あるとすると、縦の線を取ると横の線がなくなって、自分が得をすると、相手が損をするという話になる。例えば防災訓練に、市役所の職員や地区の市民があたるが、大学の学生が手伝いをしたとすると、大学が手伝うということは、大学の犠牲の下に防災訓練になっているか、どっちかが得をするという話になる。これを大学も学生に対して、手伝うと授業の一環として単位をあげるということになると、損失の角度が小さくなる。

それから中学校でピンポンの課外授業がある場合に、その面倒をみる保護者や先生が少ないので先生を1人雇うのであれば、大学の学生を出す。その代わり、手伝った学生に授業の一環として認めるような科目を作る。要はそれで角度を小さくすることができる。

自然を守るためにお金が掛かるという考えでいくと、三菱電機はそのためにより多くの税金を払わなければいけないのかということになるが、三菱電機の内部の予算で、福利厚生で自然のことを取り入れていけば、別途税金をたくさん払わなくても、その中で一緒にやれるということがある。

基本の考え方は、いろんなことをやるときに、地域社会では皆さんが手弁当でやれないかという考え方。あることをする場合に別個に新しく予算を組むのと、その部分に対して他のところで手伝いができないか、そういうシステムを作っていくことのほうがいいのではないかと思う。

道路掃除をするときに、掃除に来なかった人は1,000円出すという話があるが、現在はそんなに所得が増えていないので皆さん手弁当でやる。すべての人が何らかの持ち出しをすることによって、全体が上がるという組み合わせを考えていくほうがいいと思う。

3. (今後の部会運営について)

(丸山充信部会長) 今までの意見の中で、何かあったらお願いします。

(栗谷本副部会長) 今の会社関係は環境を意識していて、リコーさんとか、三菱電機さんは合同の環境整備作業を年何回かに一緒にやりながら展開をしている。

私たちの年代は、生活の一部に自然に関わっていたが、少し年代が下がるとそういうところが非常に少なくなってきた、私たちの知識や技をなかなか次世代につなげられない。自然離れもして、これからの事業の中で次世代育成、20代、30代、40代に自然達人塾みたいなものを展開したい。もう一つは幼児教育の木育という二本立ての方策を取りたい。

(丸山充信部会長) 今行政が捉えている環境や防災など、現状の課題でわからないところがあ

るが、事務局でまとめたものはあるか。

(木村企画財務課長) 今ある26年度までの総合計画の24年度末の評価をしています。その評価を受けて、各部が現状、課題、課題解決のための政策のようなものを今まとめていて、大体9月末を目途にまとめるよう動いています。

(丸山充信部会長) 市民活動、地域コミュニティについてはどうか。

(木村企画財務課長) 定住推進部でコミュニティや市民活動については行っています。指示をいただければ、素材として提供することは可能です。

(丸山充信部会長) そういうものを出してもらい、議論していくことが必要。ここに付け加えるもの、消すものをいろいろ出していかなければいけないのではないかと思う。

(波多野委員) 私も、ごみとし尿の対策を出してほしい。

答申だからこれからの基本構想があるわけだが、まだ見せてもらっていない。

それに対しての良し悪しの返事が答申だと思っている。

委員が新しく作ることは、進んだ考え方かもしれないが、ないものから作り出すのは大変難しい。市長が方針を持っているはずだから市の基本方針は12年後までできていると思う。それに対しての意見を求めるのが答申だと思う。それでないとし難し過ぎる。

(大西委員) 今の話の関連だと、部会で項目があり、その項目の中でハードとソフトがある。自然についての対応はソフトだが、ごみ・し尿は設備や施設の問題だから、ごみとし尿に対して文化度を戦わせるということはあまりないと思う。具体的には、中津川市役所の構成部があつて、ごみとし尿はどの課でやっているのかということと、その関連の個別計画を合わせれば現状ではごみとし尿はどのような形になっているかが出てくる。

(丸山充信部会長) アンケートの77ページと78ページに市民ニーズがあるが、赤字でマイナスになっているのはどういう意味か。

(木村企画財務課長) 77ページを見ていただくと表がありますが、下のラインが満足度です。この図だと左の方へ行くほど満足度が高く、右へ行くほど不満ということです。し尿の関係は、どちらかというと満足度が大体50なので、皆さんまあまあ満足というところにあります。

(大西委員) 多くの人が問題だと思い、何とかしなくてはいけないものは上になり、あまり気にしてものが下の方の数字になる。

(丸山充信部会長) 満足していないがあまり必要でもないというものが問題。

中津川のごみ、し尿処理は都会で生活している人たちよりも満足度が高いのではないか。

(波多野委員) ある程度市民も協力するようになっている。

(丸山充信部会長) 処理施設は別として、中津川はごみ処理をしっかりしているから、ある程度満足しているのではないか。

(大西委員) 満足というのは、特に不満がないということなので、特に改善を求めているということかもしれない。

(波多野委員) それ以上求めると費用が掛かるようになるから、まあ満足なのかもしれない。

(丸山充信部会長) どんなアンケートをやっても年齢層が高くて市民病院を書かれると、市民病院はどこまで行っても青天井ということになる。

(大西委員) だからもう少し仕分けして、見切るところは見切って残ったところだけを議論したほうがいい。

(丸山充信部会長) みんな市民病院、市民病院と言っているが、開業医に行ってはじめて回っていくシステムにしないと解決できないと思う。

データのものを早急に各委員に送ってもらって、それを検討してはじめてこの防災・環境部会に入っていけるかと思う。

もう一つは防災・環境に対して、小倉委員と曾我委員も書いているし、加藤雄一郎委員の分は教育の部会に入っているが、多分、2項目以降は防災・環境部会に関係することだと思う。

(大西委員) 問題の捉え方によって組み替えがいくらでもできるので、自分でコピーして組み替えをやるといい。

(丸山充信部会長) 環境・防災に関することを箇条書きに出していくことも大事だと思う。

(大西委員) 順番を組み替えてしまってもいい。

(丸山充信部会長) 事務局にそういう作業をやってほしい。

(木村企画財務課長) 今、進めている総合計画の評価を提出するとして、各部署から出てきている防災・環境に関わる現状と課題、政策のあたりを素材として次の部会までに提出し検討いただくという運びでよろしいですか。

(丸山充信部会長) はい。早急にこうした資料を出してもらって、議論していきたいと思う。

～次回の開催日は、10月15日(火)19時から開催と決定する～

(丸山充信部会長) それでは今月中に資料を送ってください。

(栗谷本副部会長) 提案書の内容について、既存の組織があつてきちんとまとめて出てくるものと、これから作ってく団体の提案の内容は必然的に違うと思う。だから提案について良い悪いではなく、その組織が持っている考え方を反映するスタイルでお願いしたい。その団体の持っている意見はしっかり認めてほしいと思う。

(大西委員) 元々想定の中には、そういうこともあつて、全部同じ基準で判断してしまうということはないということをお願いしたい。

(丸山充信部会長) 第3回からいよいよ本題に入っていくのでお願いします。

午前11時15分 閉会

平成25年11月21日
防災環境部会 丸山充信